

遊びは非認知能力を育む

— 「非認知能力」ってどんな力？—

園長 山崎立哉

非認知能力には、大きく2つの力があります。1つ目は自尊心、自己肯定感、自立心、自制心、自信などの「自分に関する力」です。2つ目は一般的には社会性と呼ばれる協調性、共感する力、思いやり、社交性、良いか悪いかを知る道徳性などの「人と関わる力」です。この2つの力は、数値化しにくく、IQ などでは測れない目には見えない心の力です。

例えば、この吉野ヶ里こども園の園だよりの名前「大樹」とは、大きな樹のことですが、樹が大きな樹になるためには、その樹の地面の下に見えないけれどもその樹の根っこがあり、その根っこがどんどん深く伸びていかないと大きな樹にはなりません。根っこは地上では目には見えませんが、すべての樹木はこの根っこで支えられて大きく育っていきます。この根っこが非認知能力です。

また、家で例えるならば家の基礎の部分になります。2階建て、3階建ての立派な家を建てるにはしっかりとした基礎（土台）が必要です。基礎がしっかりとしていなければその家は傾いてしまいます。それと同じように非認知能力とは、心の基礎（土台）のことで、乳幼児期に心の基礎（土台）がしっかり育たずぐらついていると、小学校、中学校で沢山の重たい教育を乗せられたとき、支え切れずに自分のものにできません。乳幼児期にしっかりとした基礎（土台）を作っていれば、きちんと積み上げていくことができます。

では、乳幼児期に何をすればこの非認知能力が育まれるのでしょうか。それは、乳幼児期から文字を憶えたり、数を数えたり、計算したりするのではなく遊ぶことです。子どもたちが遊んでいるときすごく嬉しそうです。子どもたちはおもしろい遊びを発見すると、目が輝き遊びに集中します。おもいきり遊ぶことによって、自然に主体性や意欲や頑張る力などが身につけていきます。これが非認知能力です。

今、新型コロナウイルスの影響で、子どもたちはお友達や保育者と思うように遊ぶことができません。乳幼児期の一番大切なこの時期に、遊ぶことができないことはとても悲しいことです。一日も早く終息して、安心して遊べるように、子どもたちの目が輝きおもいきり遊べるようになることを切に願っています。